

## 松ヶ崎の明治期の調査と現在の聞き取り

京都府立大学歴史学科デザイン研修

### 明治16年(1883)完成「郡村誌」愛宕郡1 (京都府立総合資料館)

(注<>は割書)

社 白髭神社<村ノ西北ニアリ、村社四履欠ク、面積千三百坪、祭神猿田彦神、祭日十月廿三日、摂社ニ岩上神社アリ>

寺 妙泉寺<村ノ東北ニアリ、境内東西三十三間南北三十八間、面積千七十一坪、日蓮宗京都立本寺末、永仁中僧日像開基本寺元ト天台宗ニシテ叡山ニ属スト云>妙圓寺<村ノ東北ニアリ、境内東西二十三間南北二十間、面積八百七十五坪、本寺同上、寛永中僧日英開基>本涌寺<村ノ東北ニアリ、境内東西八十八間南北三十間、面積二千六百四十坪、本寺同上、天正中僧日生開基>

### 明治20年(1887)4月「町村沿革取調書」愛宕郡松ヶ崎村 (京都府立総合資料館)

愛宕郡下鴨村松ヶ崎村戸長鈴木元徳提出

#### 神社寺院

- 一 神社ニ付テハ往古<年号不詳>ヨリ氏神ヲ新宮朋神ト号セリ、然ルニ中世以来一村一宗ノ訳ヲ以テ同村僧侶ニ依頼シ、之カ奉祀ヲナシ法華經一部ヲ神殿ニ納メン事ヲ恐レ白髭神社ト改称ス、且境内ニ二社<八幡宮三光天>境外ニ一社<岩神社>ノ末社アリシモ、社家神主或ハ家格ヲ異ニスル者又ハ氏子総代等無之、村民席順ニヨリ宮座ト称スル者十三人ニテ日々燈明掃除等ノ世話ヲナシ、其内ヨリ毎年抽籤ヲ以テ神殿ト称スル者上下二人ヲ定メ、年中神供祭典等ニ奉事ス、年々一月十六日御弓神事ヲ執行ス<是ハ神代四弓ノ内護治弓ノ式ナル由、古老ヨリ伝聞ス>且例祭ハ三月三日村民麻上下ニテ総参詣、拝殿ニ高座ヲ設ケ僧侶經文之論議ヲナシ、終テ読經セルヲ祭典ノ式トス、尤庄屋年寄宮座等モ拝殿ニ列座ス、維新ノ際ヨリ旧例ヲ廢ス祭典經費燈明料神供拝殿等ノ修繕費及神殿給料等ハ、氏神領拾四石九斗八升ノ物成ヲ以テシ、其不足ハ村民有志ヲ以テナセシモ、維新后祭典費以下祠掌給料等ノ諸費ハ都テ村費戸数割トス
- 一 寺院ハ妙泉寺<寺中ニ止静院・実成院・宝泉院・玉禅院等六坊アリシモ、維新之際塔中ヲ廢シ妙泉寺へ合併ス>本涌寺・妙圓寺ノ三ヶ寺共日蓮宗ニシテ、別当等無之往僧進退ハ妙泉寺・妙圓寺ハ檀家ヨリ本人へ示談之上進退ス、本涌寺ハ檀林ト称シ日蓮宗学室ナルニヨリ往僧無之諸国ノ僧侶集合ス

保護方法ハ妙泉寺ニ於テハ田七反壹畝拾四歩、妙圓寺（綴じ目のため判読不明）其得益ノ五分ヲ住僧ニ与へ残り五分ヲ以テ修繕費ニ充ツ、不足セルトキハ且家中ヨリ有志ヲ以テス、本涌寺ハ本山立本寺ヨリ保護ス

町村休日

- 一 正月元日ヨリ三日迄新年休、正月十五日ハ上元休、同十六日は御方神事休、三月三日ハ氏神祭休（維新后ハ霜降節）、五月中旬田植付休、六月七日廿四日ハ祇園会休、七月十五日十六日ハ中元休、十一月八日ハ氏神火焚休

明治44年（1911）『京都府愛宕郡村志』（愛宕郡役所編纂）

神社

新宮神社<小字林山>

祭神 猿田彦神

村社旧大比叡大明神と称せしを、徳治元年一村改宗の時日像の書せし法華経を合祀し、妙泉寺の僧に托し祭祀せしが、明治の初之を止め白鬚神社と号し詞掌を置きしも、明治二十年に至り社号を復旧せり、境内千三百十坪官有地第一種、祭日十月二十三日氏子百七戸

末社

八幡宮 祭神 八幡大神

三光社 祭神 日月星

岩上神社<小字林山>

祭神 不詳

社殿を設けず大石を祭れり、口碑に昔兵庫の海中に光物あり、某高僧其光を探り此石を得、岩上大明神と号し此に祀りしに生まれりといふ、旧時は漁獵又牛馬の神とて参詣多かりし由なり、境内百五十坪民有地第一種

寺院

妙泉寺<小字堀町>

本尊 題目 釋迦佛 多寶佛

日蓮宗立本寺相伝ふ松崎寺の旧跡なりと、松崎寺は拾芥抄に中納言牒利創とあり牒利といふ人伝なし、日本書紀畧に正暦三年六月八日中納言源保光卿供養松崎寺号圓明寺とあり、外の書にも同じ記事あれば牒利は誤なるべし、蓋し延暦寺に属する寺院にて本尊は觀世音菩薩なりしと云ふ、其後永仁年中日蓮宗の名僧日像上人此地に來り法華弘通の時、本寺の住職實眼大に之に帰依して改宗せり、乃ち本尊以下皆日像の點眼せし仏像を安し、寺名をも改めて妙泉寺と号したり、一村の住民遂に隨喜して改宗するに至れり、時に徳治七年なり松ヶ崎題目踊此より始まる、此後寺運年を逐て盛んなり

## 活用事例2 松ヶ崎探検ウォークの企画と調査

しが、天文五年山徒日蓮宗の寺院を乱妨するに当り本寺も焼亡を免がれず、天正三年に至り中興する所あり、今の本堂聚楽邸の厨庫を豊公より賜ひしものなりといふ、旧と實成、實泉、玉禪、大乘、止静の五院ありしが、明治九年本坊に合併せり、境内八百九十六坪内六百二十九坪官有地第四種、其他民有地なり、本堂・庫裏・客殿等備はれり檀徒百軒余あり

### 境内仏堂

|     |    |      |
|-----|----|------|
| 妙見堂 | 本尊 | 妙見大士 |
| 七面堂 | 本尊 | 七面天女 |
| 開山堂 | 本尊 | 開山碑石 |

### 妙圓寺

|    |    |     |     |
|----|----|-----|-----|
| 本尊 | 題目 | 釋迦佛 | 多寶佛 |
|----|----|-----|-----|

日蓮宗立本寺末、元和二年本涌寺能化本覺院日英隱退の所なり、日英法徳あり帰依者多く松ヶ崎東部の者之が檀家となり、一ヶ寺となし妙圓寺と号す、元化（元和カ）年中本堂・庫裏を建立せり、境内に大黒堂あり勇猛庵主日量の遺仏にて傳教大師の作なりといふ、信仰最も多く甲子の日遠近参詣群をなす、松ヶ崎大黒天とて其名尤も高し、境内九百一十一坪民有地第一種、檀徒百二十五人

### 境内仏堂

|     |    |     |
|-----|----|-----|
| 大黒堂 | 本尊 | 大黒天 |
|-----|----|-----|

### 境外仏堂

|       |    |      |
|-------|----|------|
| 鬼子母神堂 | 本尊 | 十羅刹女 |
|-------|----|------|

### 本涌寺<小字東山>

|    |    |     |     |
|----|----|-----|-----|
| 本尊 | 題目 | 釋迦佛 | 多寶佛 |
|----|----|-----|-----|

日蓮宗立本寺末、天正二年教蔵院日生の開基する所にして、日蓮法華一宗學林の濫觴なり、日生此地に法華を講談せしに門徒四方より雲集し遂に教林となれり、日生飯高寺を下総国に開らき再び本寺に帰り、遂に立本寺に出世し後此に隱退して終れり、日生最も法華の奥義を究め、本宗に於て之を称して講經の鼻祖と為せり、当寺門前に法華宗根本学室の石標を立つるは之が為めなり、承応三年の春女院御所新造の余木を賜ひ講堂を建つ、今の本堂是なり、爾来継続明治の初めに及び之を廢し、学校を毀撤せり、然れど明治二十九年九月更に日蓮宗第七教区小檀林を此に設置せり、境内三百六十三坪同三百五十四坪は官有地第四種なり、本堂・客殿・庫裏等備はり、寺産は地所三町余を有す。信徒二十余人

### 境内仏堂

|     |    |      |
|-----|----|------|
| 鎮守堂 | 本尊 | 護法善神 |
| 開山堂 | 本尊 | 開山上人 |
| 妙見堂 | 本尊 | 妙見大士 |

### 名勝旧跡

## 活用事例2 松ヶ崎探検ウォークの企画と調査

### 日輪月輪瀧

妙泉寺境内七面天女の祠畔谷間より出づる細流なり、岩石に懸りて瀧を成す、高十尺許今は荒れたれど猶存せり

### 大黒天絲櫻

大黒堂の辺に大樹の垂絲櫻多し、花時遊客頗盛んなり、近年其後山を開墾し亭榭を設け大に景致を添へたり

### 櫻井

岩上社の下狐坂の右に在り、浅き山の井にて其上に題目の碑立り、旱魃にも枯れず枕草紙に挙げし櫻井なりといふ、櫻井僧正の事を伝ふれど確かならず、櫻井の里と古歌に詠しは此には非ざるべし

## 2013年1月29日聞き取り

場所：京都府立総合資料館 2階会議室 9時30分～

話者：岩崎皓さん（80歳）…20年前まで教師（数学・物理）、涌泉寺の同行、お世話をしていた（平成4～7年の4年間）

記録：西田陽子・山本眞由美（歴史学科3回生）

### ○涌泉寺（円明寺→歓喜寺→妙泉寺・本涌寺→涌泉寺）

- ・日蓮宗の大本山である妙顕寺よりも15年早く日蓮宗になった寺。
- ・大正7年ごろ妙泉寺と本涌寺を合併して涌泉寺となる。

### ○円明寺の発見

992年 中納言源保光<sup>やすみつ</sup>（醍醐天皇の孫）が松ヶ崎に寺を建てたのがはじまり

「正暦三年六月八日、中納言源保光卿供養松崎寺号円明寺」（『日本紀略』より）

- ・岩崎氏の父親が明治百周年にあたって、松ヶ崎村についてまとめるために調べたところ、寺に古い図面が3面残されており、本堂・院の場所や名前がはっきりと記されたものを写していた。

小学校の建て替え工事の際、発掘調査が行われ、図面をもとに円明寺があったとされる場所を発掘。礎石と雨水が落ちる溝跡が見つかる。

- ・なぜ源保光は松ヶ崎に寺を建てたのか？（岩崎氏の見解）

①内裏からみて鬼門の方角（北東）に位置する（下鴨神社は朱雀門の北東に位置する）。

②995年ごろ、京都で疱瘡が流行したので、疫病の流行を止めるために寺を建てた。

類似例）朱雀門の北東には下鴨神社の本殿（平安遷都以前に建立）

森幸安の地図に現在の本殿の東側に旧賀茂御祖神社←現在の名は秦社

○新宮神社と熊野本宮（地図から）

新宮神社…伊弉冉尊、伊弉諾尊、速玉男尊、太平大明神、猿田彦を祀る

↓真南

熊野神社…事解之男命、伊弉冉尊、伊弉諾尊、天照大神、速玉男尊を祀る  
（京都）和歌山の本宮から勧進した。

↓真南

熊野川…熊野本宮大社は明治22年まで熊野川の中洲にあった

⇒少なくとも明治22年よりも前に新宮神社はあったのでは？

- ・ どうして南北に一直線になっているのか。→子午線信仰

類似例) 京都太秦の広隆寺（蜂岡寺）

↓真南

斑鳩

<広隆寺建設のいきさつ>

聖徳太子の夢に、「斑鳩の地から北に10里余のぼったところに寺を建てよ」とのお告げがあったと話したところ、秦河勝が「そのあたりに私が治める地があります」として寺を建立した。

⇒秦氏は、技術者を含んだ集団、測量技術に優れていたのでは？

○新宮神社

- ・ 新宮神社前の広い道は参道だが、その先（北山通りに出る道）は村の道
- ・ 競馬（くらべうま）

新宮神社横の道を馬2頭が走る。2頭が同時に走るのではなく、1頭（A）がまず走り、その後をもう1頭（B）が追いかける。

⇒Aが逃げ切る or Bとの距離をひらく→Aの勝ち

BがAに追いつく or 距離が近づく→Bの勝ち

現在は住宅地ができたため行われていない。

※七面祠でも競馬が行われており、こちらでは2頭同時に走る。

○七面大天女宮

- ・ 七面大天女宮から妙泉寺に通じる参道は大正7年頃（松ヶ崎小学校ができてから）なくなる。
- ・ 昔は七面大天女宮のみにおみくじがあった（現在は新宮神社にもある）。六角形に切った竹に数字が書かれ、大きな額に数字と結果（大吉や吉など）と和歌が書かれている。松

## 活用事例2 松ヶ崎探検ウォークの企画と調査

ヶ崎には壇林があり、教養ある地域だったので、和歌を讀んでおみくじの内容を讀み取った。

### ○岩上神社

- ・昭和 20 年中頃まで、牛馬の神として信仰があった。現在、行事は御火焚だけ（12 月 5 日）。昔はミカンを神に捧げ、子供たちにお下がりとして渡した。
- ・「末刀」の名は、岩崎さんの父親時代に『延喜式』にある末刀が岩上神社だと考えられ、付けられたもの。実際は異なる。
- ・昭和 25 年 9 月のジェーン台風で石垣の一部が崩れ、猪のような形をした埴輪が一つ出てきた。現在、所在は不明である。
- ・境内にある壊れた瓦牛は岩崎さんが子供の頃にはあった。
- ・御神体の岩の周りの石柱には「播磨」の名前がある。←口碑との関係
- ・岩上神社の下には断層が走っている。御神体の岩は断層のものか。

### ○七面宮

- ・滝は以前から水量が減っていたが、地下鉄の工事により完全に止まった。
- ・祭りのときだけ、御神体（七面大天女）を持って来て、法華経をあげる。
- ・現在は七面宮の境内にある「妙泉寺」と刻まれた石灯籠は、昔は松ヶ崎小学校内の西端にあった。

## 2013 年 2 月 13 日、16 日聞き取り

場所：京都府立総合資料館 2 階会議室（2/13）、新宮神社（2/16）

話者：岩崎皓さん、新宮神社

記録：安藤都（歴史学科 3 回生）

注記：16 日に聞いた内容は「(16 日)」とし、それ以外は岩崎さんのお話

### 新宮神社

#### ○競馬

- ・昭和 14、15 年まであった、新宮神社から白雲稻荷まで 1 頭ずつ走らせる
  - 白雲稻荷の馬場（東の馬場）では、1 頭ずつ走って馬を制御する技を競う
  - 新宮神社まで帰ってくる
  - 新宮神社の馬場（西の馬場）では、2 頭ずつ走って速さを競う
- ・馬に乗る男性が徴兵されたのと、馬が減ったのとでなくなった
- ・馬を持っていた家には、今でも鞍が残っている。螺鈿で加工されて、家紋の入った荷物用の鞍がある…都へ物資を運んでいた？（岩崎さん家）

## 活用事例2 松ヶ崎探検ウォークの企画と調査

- ・観客は馬場の脇で見ているが、農業用の馬なので制御できず逃げ出すものもあった。

### ○祭

- ・昔は3月3日だったが、明治になったころに10月23日になった
- ・近隣の村で祭りの日が違うと、よそから嫁いできた人がいる場合、出身村の祭りの時に御馳走などを送らねばならない←お金がかかる  
小学校を作る資金のため、愛宕郡で祭りの日をそろえた  
(今は多少変化している所もある)

#### <戦前>

- ・競馬、神主に楽器を教えてもらって、能や謡など

#### <戦後>

- ・稚児行列
- ・小学校4年くらいの子に神楽を教え、拝殿で舞う
- ・謡…百姓でも習っていた、「鶴亀」「高砂」などを小声で謡う中で行う神事があった。  
神事のためだけではなく、教養的な意味でもやっていた。現在も、「松韻会」という会があって練習している

### ○絵馬

- ・神宮皇后の絵、賀茂の競馬の絵ではないか
- ・昔、高野山に村人がお参りした時、無事に帰ってこられたお礼の意味で奉納した(16日)

### ○ご神木(16日)

- ・向かって右が男杉(おすぎ)、左が(めすぎ)で、男杉の方が20メートル程高かった。
- ・男杉は落雷で裂けた。良い木だったため、民芸品作家などに高く売れた。  
女杉には蜂がよく巣を作っていたため駆除していたが、その薬品で弱って枯れた。
- ・参拝に来た人がさすったりしていた

### ○嶋森大神(16日)

- ・35年程前に、疏水の傍の家が建て替えをする時、敷地内から出てきたもの。よくお参りに来られる方だったので、縁あって引き取った。神社にはほぼ関係ない。
- ・「嶋森大神」が何なのかは不明

### ○奉賛会(16日)

- ・普段の管理は神主さん(隣の家)、経済的な援助は奉賛会が行っている
- ・正確な人数は聞けなかったが、70代、80代のお年寄りで構成されているため、次世代への引き継ぎが望まれている

## 活用事例2 松ヶ崎探検ウォークの企画と調査

- ・奉賛会の方が、狛犬のところにある門の塗り直しをしていた（16日）

### ○その他

- ・子供は境内で遊んだりしていた、お火焚きの時は、使ったみかんがもらえるので遊んで待っていた。
- ・地元の5、6歳くらいの兄妹が遊びに来ていた（16日）
- ・おみくじは、特に形に意味は無い。長いと読まれないし、末広がりの良い形なので、数年前に変えた。社務所に声をかけないと引けない（人が常時いるかは不明）（16日）
- ・石垣の上の木は桜。一年中咲いている。

### ○七面大天女宮

- ・七面天女…法華経の守護神
- ・額があり、そこに数字と和歌が数個書かれている。おみくじを引くと数字が書いてあり、それと和歌が対応していた。和歌の意味を読みとって、運勢を解釈する必要があった。昭和30年くらいまでであった。
- ・亀の絵馬があり、そのためか亀を見つけたら七面さんの池に放すことになっていた
- ・池は昭和60年代に枯れた
- ・眼病平癒の石碑から遡って考えると、字面的に、妙見菩薩が祀られていた可能性もあるのではないか

## 解説

東 昇

ここでは松ヶ崎の寺社に関する記事をまとめた。前半は明治期の「郡村誌」「町村沿革取調書」『京都府愛宕郡村志』の記述である。後半は、京都府立大学歴史学科デザイン研修の学生が、「京都の歴史を歩こう！2013 早春の松ヶ崎探検ウォーク」企画のため、松ヶ崎の岩崎皓さんはじめ新宮神社の方におうかがいした話を聞き取りとしてまとめたものである。この聞き取りに関しては、当日の学生が聞き取った内容、学生の理解度も含めて、再現するために、正確さも含めてそのまま掲載した。

内容をみていくと、新宮神社の祭礼が3月3日だったという共通する内容、聞き取りではなかった宮座や御弓神事の記述、明治期の記述にはない競馬の聞き取り、相違する内容があることがわかる。「町村沿革取調書」の御弓神事に「古老ヨリ伝聞ス」とあるように、当時も村の古老から聞き取り、調書を作成した。このように明治の記述の一部は、現在の聞き取りと同じ形で作成されており、いずれも同じ地域情報として、データベースに組み込む必要があると考える。



---

京都地域情報・文化遺産データベースの企画・展開・活用  
—明治期の「郡村誌」と近世村町別文書一覧—

編 集 東 昇（京都府立大学文学部歴史学科准教授）

発 行 京都府立大学文学部歴史学科文化情報学研究室

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2013 年 3 月 31 日

印 刷 株式会社 双林印刷社

〒601-8106 京都市南区新千本通十条下ル

---

---